

事務局:〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37
明治学院大学 経済学部大平研究室
e-mail: ohira@eco.meijigakuin.ac.jp
TEL&FAX 03-5421-5639
会費振込口座:「経営哲学学会」00160-9-573076

1. 代表理事就任の挨拶

代表理事の就任にあたって

明治学院大学
大平 浩二

三戸 公先生の後を受けて、経営哲学学会の代表理事に選出された。本年、創立20年を迎える伝統ある学会の代表としてその責任の大きさを感じている。創立以来20年間の間には様々な試練もあったが、会員の皆様そしてとりわけ6年間の三戸先生のご尽力によって、一時停滞にあった本学会も立ち直り、着実な歩みを進めている。

この度、私が選出された大きな理由の一つは、諸先輩の皆様が築かれた基盤の上に立って、より若い人々や多分野の方々が、学会の次の発展に寄与してほしいという皆様のご意向が強く働いたからであると思う。

さて、今後の本学会の将来を考える時、取り組まねばならない課題も少なくない。そのいくつかを挙げると、まず一つは、学会活動の更なる充実と拡大である。学会である以上、研究成果の集大成である全国大会の成功はいうまでもないが、それには各地域部会の充実あって初めて成しうるものである。会員の皆様の各部会への積極的な参加をぜひともお願いしたい。また、今日の内外の企業行動に関わる様々な諸問題を顧みるに、本学会はそうした現実の諸問題に対しても貢献できうるのではないかと思う。真摯な理論的基礎に裏付けられた実際の提言も、学術研究とともに本学会の課題の一つであろう。

第二は、会員数の拡大とそれによる財政の健全化である。できる限り多くの方々に本学会の主旨と意義をご理解頂き、入会していただきたいと思う。それは財政の健全化にも繋がろうし、さらにより充実した活動の源泉ともなる。

第三は、学会誌としての機関誌の発行である。とりわけ、若い会員・研究者にとっては研究成果の貴重な発表の場である。と同時にまた、本学会が広くその活動を伝えるための手段でもある。ぜひとも、より多くの方々に読んでいただけるような学術および実践性を兼ね備えた機関誌を考える必要がある。多少の準備時間は必要であろうが、学会にとっては重要かつ焦眉の課題である。

その他、取り組むべき課題は少なくない。新しい時代の経営哲学学会の建設に向けて、会員の皆様のご指導とご協力を切にお願いするとともに、ぜひとも建設的なご意見をお寄せ頂きたい。

2. 代表理事の任期を終えて

代表理事の任期を終えて

三戸 公

代表理事の2期にわたる任期を大過なく過すことが出来たとすれば、それは理事・常任理事、とりわけ大会当番校を引うけ大会委員長として重責を果された方々、そして事務局を担って下さった大平浩二・石井脩二両教授のおかげである。心から御礼申上げる。

この6年の間における特筆すべきことは、学会の名称をなす「経営哲学」を問う統一論題を4年連続して選んで大会をもったことである。すなわち、1999年・中央学院大学「経営哲学とは何か－方向と課題」、2000年・新潟経営大学「経営哲学を問う－21世紀を迎えて」、2001年・関西大学「経営学と哲学－経営哲学の存在を問う」、2002年・早稲田大学「経営哲学の新たなる探求－総括的シンポジウム大会」である。

少なからぬ学会が自分たちの研究対象を真正面から問う統一論題を必ずしも選ぶことなく、ましてや重ねて問うことのほとんど無い状況の中で、それはまさに学会にとり当たり前のことでありながら当たり前ではない壮挙とも言うべきである。この事態は、最初の中央学院大学での大会が異常なまでの熱気につつまれた中で終了したことに始まり、新潟経営大学での大会をもっても足れりとせず、関西大学での大会をもってなお納まることなく、早稲田大学での総括的シンポジウム大会を企図し実現したものである。

何がこのような事態をひき起させたのであろうか。それは、経営学という学問の特質に由来すると思う。経営学は規範・理論・技術の3つの領域をもつ。学問が科学化し、理論は科学、技術は応用科学といわれ、規範が積極的に問われること少なくなりゆきつつ中で、経営学はこれを無視し、軽視することの出来ない学問だからである。経営倫理・社会的責任が益々大きく論じられているばかりでなく、理念・信条・規範・価値を抜きにして経営を十全に把握することは出来ないからである。むしろ、経営の存立・発展における決定的・最重要な要因として取り扱うべきものであるからである。この要因は科学的接近も可能であるが、その哲学的接近こそこの領域把握の本道である。

そして、細分化し・限定せられた情報として機能性を本質とする科学がますます肥大化し、資本と組織に奉仕して、時代閉塞を招来しているのが現代である。人間より出発して人間に帰えり・事物の起源的・全体的把握を目指す哲学・経営哲学の責務は限りなく大きい。この学会が隆盛ならんことを、念願してやまない。

3. 次期全国大会開催のお知らせ(詳細は後日ご案内いたします。)

第20回全国大会(中京大学)へのご案内

日 時	2003年9月12日(金)13日(土)14日(日)(12日は理事会)
場 所	中京大学(〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2) 実行委員長 中條秀治(中京大学経営学部)
統一論題	「経営哲学は死んだか？」 －日本企業の経営実践の基層を問う－(仮)

4. 第19回全国大会報告

第19回全国大会のご報告

第19回実行委員長

こうとう いすけ

厚東 偉介

第19回全国大会が2002年9月28日(土)29日(日)の両日、早稲田大学国際会議場において「経営哲学の新たなる探究」というテーマのもとで『大シンポジウム大会』を目的にして開催しました。

経営哲学学会第16回大会(1999年・中央学院大学)は「経営哲学とは何か―方向と課題―」、第17回大会では(2000年・新潟経営大学)では「経営哲学を問う―21世紀を迎えて―」、第18回大会(2001年・関西大学)で「経営哲学と科学―経営哲学の存在を問う―」という形で、「経営哲学とは何か」という共通の統一テーマで3年間連続して検討を重ねてきたのであった。同じ統一テーマで3年間も問い続けることは、他の学会ではなかったであろう。「その存在を根本的に問うこと」これ自体がまさに「哲学」であり、これ以上に相応しいテーマは経営哲学学会では見当たらない。3年間で多くの統一論題報告がなされたが、報告者相互とフロアーの会員とのシンポジウムは今回の大会のために慎重に残されていたのである。

「経営哲学とは何か」というテーマを「経営哲学の課題」「経営哲学の領域と方法」「経営哲学の意義」という三つの観点から問い、これに「経営哲学の新たなる探究～科学・哲学・文明～」を加え、検討し総括することになった。シンポジウムを大会のメインのテーマに掲げ「全国大会を開催」することは、経営哲学学会はもとより、他の学会でもかつてなく、まさに「前代未聞の大冒険」であった。

過去3か年の大会の共通テーマのシンポジウムが目的なので、その成果と参加者数で開催当日まで強く心配したが、参加者数は150名を優に超え、この問題について理解の深い司会者のお力もあり、大きな成果を上げることができた。こうして次年度には経営哲学学会も20回という「青年期」を迎える準備も整った。プログラムの準備、開催までご一緒して頂いた三戸 公先生と各委員の諸先生方と司会者、参加された多数の学会員に、事務局長の藤田 誠と厚東 偉介から厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。お蔭様で印象深い素晴らしい大会になりました。

5. 第19回全国大会(早稲田大学)会員総会報告

1. 平成13年度(H.13.9.1-H.14.8.31)事業報告

(1)全国大会

第18回全国大会

開催校 関西大学

開催日 平成13年9月14日・15日・16日

統一テーマ「経営学と科学―経営哲学の存在を問う―」

(2)地域部会

(i)関東部会

- ・平成14年3月16日 明治学院大学
 - ①太田幸治(明治学院大学)
「マーケティングにおける製品概念の系譜」
 - ②宇都宮浩太郎(元マイカル社長)
「流通業の経営理念」
 - ③小椋康宏(東洋大学)
「企業価値創造と経営哲学－財務論の視点から－」
- ・平成14年7月6日 東洋大学
 - ①那須幸雄(文教大学)
「戦略マーケティングの展開」
 - ②平田光弘(東洋大学)
「経営理念とコーポレートガバナンス」

(ii)沖縄部会

- ・平成14年6月29日
平敷徹男(琉球大学)
「建設業界における戦略と今後の課題」

(3)会報

第29号 平成14年1月17日 第30号 平成14年4月27日

(4)年報

『経営哲学論集第18集』平成14年8月10日

(5)研究奨励賞

研究奨励賞審査委員

1年委員:高沢十四久(専修大学) 飢富順久(和光大学) 小笠原英司(明治大学)
大滝精一(東北大学)

2年委員:厚東偉介(早稲田大学) 大平義隆(新潟経営大学) 石井脩二(日本大学)

受賞者 :該当者なし

(6)総会・理事会・常任理事会

総会	1回	平成13年9月15日	
理事会	3回	平成13年9月14日・15日・16日	
常任理事会	7回	平成13年9月28日	平成13年11月2日
		平成13年12月8日	平成14年1月12日
		平成14年2月18日	平成14年3月16日
		平成14年5月11日	

(7)各種委員会

プログラム委員会	7回	平成13年9月28日	平成13年11月2日
		平成13年12月8日	平成14年1月12日
		平成14年2月18日	平成14年3月16日
		平成14年5月11日	
広報委員会	2回	平成14年1月10日	平成14年4月10日

2. 平成13年度決算報告

「

」

」

」

3. 平成13年度監査報告

4. 平成14年度事業計画

(1)全国大会

開催校 早稲田大学

開催日 平成14年9月27日・28日・29日

- (2)地域部会
 北海道部会 東北部会 関東部会 中部部会 関西部会
 九州部会 沖縄部会
- (3)会報
 第31号 第32号
- (4)年報
 『経営哲学論集第19集』(早稲田大学)
- (5)総会・理事会・常任理事会開催予定
 総会 1回
 理事会 2回
 常任理事会 5回
- (6)各種委員会
 プログラム委員会
 機関誌検討委員会
 20周年記念行事検討委員会
 規約改正検討委員会

5. 平成14年度予算案(平成14年9月1日～平成15年8月31日)(単位:円)

収入		支出	
項目	決算	項目	予算
前期繰越	1,604,119	大会費 ※2	300,000
会費収入 ※1	1,505,000	年報発行費 ※2	400,000
		研究部会費 ※3	150,000
		通信費	400,000
		会議費	150,000
		消耗品費	60,000
		印刷費	250,000
		交通費	100,000
		会費振込手数料	15,000
		経済学会連合分担金	35,000
		研究奨励金	40,000
		雑費	70,000
		事務費	120,000
		予備費 ※4	400,000
		次期繰越	619,119
合計	3,109,119	合計	3,109,119

※1 会費収入 7,000円×215口(307人×70%=215人)=1,505,000円

※2 第19回大会分(早稲田大学)

※3 7部会に対して各20,000円。関東部会は30,000円。

※4 第20回記念事業として(第19回大会の成果の出版関連費用を含む)。

6. 研究奨励制度審査委員会報告

研究奨励賞：該当者なし

審査委員：小笠原英司・舩富順久・高沢十四久・大滝精一

厚東偉介・大平義隆・石井脩二

上記委員の内、小笠原・舩富・高沢・大滝の4委員が任期満了で交替する。

7. 次期開催校・開催予定日

第20回大会

開催校 中京大学

開催日 平成15年9月

8. 会員異動

(1)新入会員

会報No.29、No.30ですすでにお知らせしましたように、新入会員は24名でした。

さらに昨日の理事会において承認された新入会員は、下記の通りです。

下山節子(日本赤十字九州国際看護大学)

畠 慎一郎(明治学院大学・院)

亀川雅人(立教大学)

山本麻友子(株)メンバーズ

長張敏明(明治学院大学)

大瀬良 伸(早稲田大学・院)

小野瀬 拓(東洋大学・院)

藤木清次(株)リソース総合研究所

山中伸彦(立教大学)

梅澤紘介(明治学院大学・院)

宮田俊樹(京都大学・院)

(2)復活会員

日置弘一郎(京都大学)

(3)退会会員

退会会員についてもすでに会報でお知らせしましたように16名でした。

さらに昨日の理事会において承認された退会者は下記の通りです。

石井隆三郎(石井経営労務事務所)

島田達巳(東京都立科学技術大学)

二神枝保(横浜国立大学)

吉沢正広(愛知学院大学)

浅海雅人(株)日経リサーチ

長浜穆良

(4)逝去会員

以下の会員がご逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

坂井正廣(国士舘大学)

生田富夫(中央学院大学)

長谷川和正(株)経営システム支援

岩永宏治(駒澤大学)

2002年9月28日現在、会員数316名となります。

9. その他

第19期日本学術会議会員の登録の受理(平成14年9月13日)

6. 関東部会開催のご案内

関東部会を下記要領にて開催予定です。万障お繰り合わせの上ご参加ください。

日程:平成15年3月15日(土)

場所:早稲田大学

* 詳細は後日ご連絡いたします。

7. 会員異動 (順不同、9月の全国大会以降)

(1) 新入会員: 頼本節雄((財)倉敷中央病院)
馬越恵美子(桜美林大学)
原 敏晴(流通科学大学大学院)

(2) 退会会員: 中井節雄(大阪商業大学(名誉教授))

8. 経営哲学学会役員名簿(2002年9月～)

<代表理事> 大平浩二(明治学院大学)

<常任理事> 大滝精一(東北大学) 大平義隆(新潟経営大学) 小笠原英司(明治大学)
飢富順久(和光大学) 金山 権(桜美林大学) 厚東偉介(早稲田大学)
櫻井克彦(中京大学) 中條秀治(中京大学) 二神恭一(愛知学院大学)
増田茂樹(愛知産業大学) 三井 泉(帝塚山大学) 村山元英(中京大学)

<理 事> 池内秀巳(九州産業大学) 伊禮恒孝(琉球大学) 上原征彦(明治学院大学)
牛窪 潔(琉球大学) 大隈正明(新日本製鉄) 亀川雅人(立教大学)
佐々木恒男(青森公立大学) 早坂明彦(聖徳大学) 日置弘一郎(京都大学)
藤森大祐(東京富士大学) 細萱伸子(上智大学) 村上伸一(北星学園大学)

<幹 事> 鹿嶋秀晃(駒澤大学) 石井康彦(愛知産業大学) 藤沼 司(明治大学)
太田幸治(明治学院大学大学院) 吉田絵里香(明治学院大学大学院)
小野 琢(明治学院大学大学院) 大平修司(一橋大学大学院)
桑原光一郎(上智大学大学院)

<地域部会代表>

北海道部会	村上伸一(北星学園大学)	東北部会	大滝精一(東北大学)
関東部会	厚東偉介(早稲田大学)	中部部会	中条秀治(中京大学)
関西部会	三井 泉(帝塚山大学)	九州部会	池内秀巳(九州産業大学)
沖縄部会	伊禮恒孝(琉球大学)		

経営哲学学会事務局

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37 明治学院大学経済学部 大平研究室

e-mail: ohira@eco.meijigakuin.ac.jp

TEL&FAX 03-5421-5639